

84年の伝統を背負って

会長 岩田 仁 鳥羽80期E

今年5月の総会後の臨時理事会で会長に推挙され就任した岩田です。浅学非才の身でこのような大役を果たせるのか懸念もありますが、会員諸氏の協力とお力添えをいただき職務を全すべく決意を新たにしているところです。

当協会は前任である内田先輩が会長に就任した平成22年夏に横浜MM21の日本丸メモリアル・パークで創立80周年を祝賀する「全船協ウイークIN帆船日本丸」を開催、また、横浜みなと博物館ロビーでは全船協80年の活動を辿るパネル展を開き海事関係者に好評を博しました。改めて、先輩の足跡をたどりながら多くの先輩たちが築き上げた伝統に恥じぬよう協会の発展に貢献すべく努める所存です。

今回の交代人事は会長と専務理事が同時に代わることとなりました。専務理事と力を合わせ会員の期待に応える協会運営に努めたい。

前任の会長、専務のお二方には一般社団法人への移行に際し多大のご苦勞を拝し、全船協に新たなレールを敷いていただいたこと深く感謝申し上げます。

全船協では昨年夏、会員意識のアンケート調査を実施し会員諸氏よりの多くの意見を集め、分析を進めてきた。分析結果から見えてきた「全船協再生」の鍵は協会運営収支の健全化対策に尽きます。

具体的には・海事に関する公益事業の取り組み・会員相互の情報交換と親睦・商船教育の充実支援・5商船高専同窓会連合会的な役割の強化などであり、これらはすでに本年度の活動方針に盛り込んでいる。

当協会の会員は外航船の職員を主体とし、その会費で運営されているが、外航海運における日本人船員の減少は壊滅的であり、今後、大幅に恢復される見通しも立っていない。現在の5高専商船学科の卒業生も内航フェリーなどに目が向いており内航海運、また陸上で活躍している同窓諸氏へ目を転じ会員獲得運動を幅広く展開せねばならないと考えております。

アンケートで寄せられた会員の声にこたえるべく実施可能な事から順次着手しているが、着任早々に本部事務所の事務スペースを見直し会長室を会員相互の歓談室専用として使えるよう模様替えしてみた。会長が事務局と机を並べることにより本部事務局全般の意志疎通の改善にも繋がることを期待しています。また、新たに次の点も実現したいと準備を進めております。

まずは、アンケートにもあった本部事務局の業務内容がわからないとの声に対する処置として本部業務の洗い出しによる事務の見える化、合理化・効率化を図る。仲間の社内監査のプロに協力を仰ぎ進めるべく準備中です。

次に本部事務所と神戸支部にある先輩たちの80年間の活動資料の整理と見える化。どんなものがどの程度あるかわかる人が無くなって久しい。多くのキャビネットに収まって整理されていないため、興味ある会員にも開放できていない。さしあたり目録だけでも作成しホームページにアップを急ぎたい。最後は会員情報の改訂と充実。会員のデータも陳腐化してきておりデータの保護と保存の面からソフトそのものの見直しも合わせ着手しました。

同じ船乗りの仲間とし「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の精神で事務局全員の力を結集し世話になった船員社会への恩返しに努めたく改めて、会員諸氏のお力添えをお願いします。

